

# 建設防災 ボランティアニュース 第52号

\*\*第 52 号の主な内容\*\*

- 1~2 頁 平成 26 年度定期総会
- 3 頁 第 1 回リーダー会
- 4 頁 沼尻前会長、飯樋副会長ご逝去
- 5~8 頁 河川愛護月間行事

## ～平成 26 年度定期総会～

平成 26 年度定期総会は 6 月 17 日 (火) 午後 3 時から東京都道路整備保全公社 A・B 会議室で開催され、会員 86 名が参加しました。

藤田理事の司会により始まり、まず杉浦会長から「昨年度は防災訓練、見学会、局事業への参加など、多くの活動を活発に行うことが出来た。今年度も会員が培った知識・経験を防災・減災に役立てるという思いを原点に、日頃から心構えを忘れずに取り組んで欲しい。」との挨拶がありました。また御来賓である建設局長代理の梅田総合調整担当部長、山口道路整備保全公社理事長、飯尾公園協会理事長からそれぞれに、丁寧な御挨拶をいただきました。



山口理事長



飯尾理事長



杉浦会長



梅田担当部長

中田会員を議長に選出し議事に入り、まず平成 25 年度事業報告を野村理事が、同収支決算報告を丸岡理事が説明し、小山監事が会計監査報告を行った後、賛成多数で承認されました。次に平成 26 年度事業計画 (案) を新井副会長が、これに伴う予算 (案) を丸岡理事が説明し、これも拍手で承認されました。その後、村尾公一さん、柿塚至さんを新しい顧問に指名し、公園協会の事務局が北原恒一さんに代わる旨を紹介して、議事は無事終了しました。

最後に、会長から今年度のリーダーへの委嘱状の手交、協会に貢献されてきた下記の方々への感謝状の贈呈、新しく入会された 11 名の会員紹介、挨拶等全ての次第を終え閉会しました。

- ・リーダー交代者 (敬称略、以下同)  
西部公園サブリーダー 湯本勝

・協会功労者

藤井賢介、小山完治、吉田安輝、池田繁敏、伊藤正行、小川恭治、小柴茂、佐野正生、新川彰、高橋好弘、瀧澤勝、本間弘

・10年継続会員

新井敏男、岩田一昭、加藤基雄、中嶋和雄、森田幹男、柳川修

・15年継続会員

小山弘光、沼尻孰、丸山勝彦



定期総会の様子

総会終了後、場所を都庁第二庁舎4階食堂に移し懇親会を行いました。63名の方々に参加し、矢野理事の元気の良い司会の下、楽しくかつ和やかに楽しい時間を過ごし、丸山会員の締めでお開きとなりました。会員のみなさま長時間の御協力誠にありがとうございました。



和やかな懇親会

担当理事 林幹生

～定期総会に参加して～

建設防災ボランティア」は、阪神・淡路大震災を契機として、平成9年に設立されました。その第18回定期総会に参加しました。

初めに杉浦会長の挨拶があり、続いて来賓の梅田総合調整担当部長から建設局主要事業の取り組み状況、山口道路整備保全公社理事長、飯尾公園協会理事長からは、災害時等における当協会とのそれぞれの協力・支援体制などが紹介されました。

建設局では、防災街づくりに向けて、木密地域特定路線の整備、河川堤防や水門等の耐震対策、土砂災害対策などの災害対策事業を積極的に進めています。しかし、災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。昨年10月には、台風26号に伴う未曾有の豪雨により、伊豆大島で大規模な土砂災害が発生し、甚大な被害が生じたことは、記憶に新しいと思います。当協会からは、大島支庁赴任経験者や土砂災害対策経験者など4名の会員を派遣し、現地調査を実施したとのこと。このような災害に対し、今後協会として、より迅速に対応していくためには、どうすべきか検討する必要があると思いました。

議事終了後、15年及び10年継続会員が表彰されました。これまでの協会活動に対する功績に敬意を表します。当協会の設立目的に「都内に大規模な地震災害等が発生した場合、東京都建設局等に協力して公共施設等の被災情報の収集、応急復旧などの支援活動を行う。」とあります。会員は、永年にわたり東京の都市基盤整備や施設の維持管理に携わり、豊富な経験と知識を有しているとともに、地理・地勢にも明るい方がそろっています。私の北北建時代には、会員の方々に「震災時の初動対応訓練」、「道路施設点検」、「河川愛護月間行事」などで協力をいただき大変お世話になりました。

いつ起こるかわからない災害に対し、日頃から

の種々訓練の積み重ねや施設点検は大変重要です。特に、協会と事務所等との連携は、いざというとき、大変役立ちます。協会に対する期待は、益々高まってきています。災害がないことを祈りつつ、これからも協会の行事にできるだけ参加し、少しでもお役に立てればと思っています。

北北建班 飯塚政憲

## ～第1回リーダー会議開かれる～

26年度第1回リーダー会議が6月24日午後、道路整備保全公社会議室において開かれました。これは、1週間前の第18回定期総会で承認された事業計画に基づき、本年度事業を円滑に進めるために協会役員と各事務所リーダーの方々との意思疎通や意見交換等を図るために行なわれたものです。

会議は新井副会長の司会進行のもとで始まり、最初に杉浦会長から「昨年の一年間はリーダーの方々や会員の皆様のご協力で円滑な協会運営ができたことを感謝いたします。本年度も会員の皆さんが現役時代の経験を生かし、各事務所班でのチームワークを図りながら活動をお願いし、本年度事業を円滑に推進していきたい」との挨拶がありました。

議事に入り、新井副会長から 1)26年度の事業予定、2)河川愛護月間行事の支援、3)東京都総合防災訓練、4)その他の議題が示されました。

最初に 1)26年度の事業予定については、二宮副会長が今年度の各事業についてその概要、実施時期、担当役員などを説明するとともに、各事務所と意見交換会等を行うなどして事業の円滑な実施をお願いしました。

次に2)河川愛護月間行事の支援については、佐藤理事から都民参加行事の「川を歩こう」の実施にあたっては各事務所の責任者と連絡を密にして協力してほしい、また、「川のパネル展」及び

「東京の川を考えるシンポジウム」については、協会役員が会員へ個別に協力依頼を行いたい旨の説明がありました。

3)の東京都総合防災訓練については、久保田理事が総務局から示された資料をもとに説明がありました。

その内容は、実施日時は8月30日(土)9時から12時まで、会場は杉並区内小中学校・区部都立公園ほか、統一テーマは昨年度と同一の「自助・共助」と「連携」、主な訓練内容としては①地域住民の避難場所への避難訓練及び避難場所運営訓練、②住民共助による訓練、③木造密集地域における救出救助活動等訓練、④展示・体験、応急復旧等訓練などでした。具体的な訓練内容は現在協議中とのことであり、決まり次第、建設局から連絡があるので担当事務所のリーダーの方へは別途通知するとのことでした。



久保田理事の説明を聞くリーダーの方々

各リーダーとの質疑応答では、①各事業の参加者名簿の送付方法は？②救命救急講習会の新規受講者や取得済者の受講時期を調整願いたいとの意見等が出されました。

最後に、新井副会長から本年度も建設局と密接な連携を保ちながら事業を円滑に実施していきたいので、リーダーの皆様のご協力をお願いしたいとの挨拶があり、閉会しました。

担当理事 丸岡敏夫

## ～沼尻前会長・飯樋副会長ご逝去～

しとしと降る梅雨の風情も感じられず、台風や集中豪雨という異例気象の7月、当協会の活動に永年貢献されたお二人が、相次いで急逝されるという悲しいお知らせをすることとなりました。まずもってお二人に心から哀悼の意を申しあげます。

会長職を引かれた後も会員として諸活動に参加されていた前会長の沼尻 執様、そして当協会の発足時から副会長であられた飯樋 實様の急逝に際し、協会員一同、ご貢献への感謝とご功績を讃えると共に、心よりご冥福をお祈り申しあげながら、謹んでご報告致します。



15年継続会員表彰で席を並べられたお二人

### 沼尻前会長のご逝去を悼む

7月22日に亡くなられた沼尻前会長におかれましては、当日の午前中、ご自宅で急に胸の痛みを訴えられ、居合わせたご友人やご近所の方と救急車で日赤病院に移られたとのことですが、当日のうちに帰らぬ人となり、本当に急逝となりました。

協会が発足して3年目の平成11年に初代の別所会長から職を引き継がれ、一昨年に現・杉浦会長に譲られるまで、正に当協会の草創期から発展期にかけて心血を注がれました。東京都地域防災計画への災害ボランティア団体としての位置付け、ボランティアニュースの創刊や、道路施設点検、河川愛護行事、勝鬨橋の市民案内など、建設局はじめ関係機関との連携・支援の活動も充実され、今日の協会活動の礎を築かれました。

現職時代には、前東京オリンピックに向けた道路整備を皮切りに、葛飾区、港湾局、そして道路監と重責を担われながらの功績は周知のところ

ですが、持ち前の的確な判断力と指導力はもとより、周囲への目配り・心配りの良さから多くの人に慕われておられたことは、衆目の一致するところかと思えます。

ご令嬢も既に嫁がれたお二人のご家庭で、不幸にも奥様に先立たれた落胆からか、「少し酒量が増えたのでドクターストップがかかったよ」と言われ、以後数年間は堅い意思でお酒を断られました。最近になり、ドクターからストップが緩和されたと耳にし、杉浦会長、新井副会長等、数名の仲間

で解禁祝いを催したのが、今年3月のことでした。若い頃から打ち込んでいたゴルフや、お仲間との酒席も楽しむようになった矢先の急なご不幸でした。喪主を勤められたご令嬢との会話も叶わずに突然のお別れで、お互いの無念さは察して余りあるところであると思えます。

26日、27日での葬儀は、大変に暑い日となりましたが、協会としてお手伝いするなか、横溝都技監はじめ現役や歴代の局幹部、卒業された大学の田中理事長など学校関係者、また元会計検査院の幹部、業界関係者、そして葬儀を統括された在籍の(株)ピーエス三菱の方々など、幅広い参列者が続き、急逝を惜しむようにお別れをされておりました。

### 飯樋副会長のご逝去を悼む

去る7月12日に逝去されました飯樋副会長におかれましては、7月3日に体調を崩して入院されたとのことですが、治療の甲斐も無く間もない急逝となりました。

平成9年の当協会発足当初から副会長として活動に貢献されてこられ、協会に在籍される最長のお一人でもありました。

都政で永年にわたりまちづくりに献身される一方、武道家(空手)として都庁内外にわたり、多くの仲間や後輩たちの指導に当たられ、残された多大な功績は、皆様に広く知られているところと思えます。

葬儀には、指導を得た多くの方々が、急逝を惜しみながらお別れに訪れておりました。

現職副会長の急逝という事態に、協会の皆様へ連絡も行き届かない状況にありましたが、協会として生花を供え、杉浦会長、二宮・新井両副会長はじめ、矢野理事、荒川会員などが参列され、永きにわたる協会活動へのご功績に深く感謝を申しあげながら、別れを告げて参りました。

監事 輿水昭秀

## ～都内各地で河川愛護月間行事～

夏を迎えて各地で開催された河川愛護月間行事。今年も延べ80名の会員が参加しました。皆さん暑い中本当にお疲れ様でした。

### I. まとめ

#### (1) 川を歩こう

河川名	開催日	事務所	会員	都民等
隅田川	7/4	一・五建・治水	4名	64名
石神井川	7/5	四建・六建	3名	51名
南浅川	7/5	南西建	2名	27名
多摩川	7/24	西建	2名	33名
計			11名	175名

#### (2) 川のパネル展

場 所	開催日	会員	都民等
第一庁舎 45階 南展望室	7/6～11	12名	約 5500名
消防博物館	7/15～26	16名	約 820名
新宿西口広場 イベントコーナー	7/28～31	13名	約 6000名
計		41名	約 12320名

#### (3) その他

行事名	開催日	事務所	会員	都民等
環七地下の巨大 トンネルを体験	7/19	三建	7名	157名
野川ちびっ子 先生集まれ	6/30	北南建	4名	122名

わくわく川清掃 &川あそび	7/20	北北建	7名	650名
東京の川を考 えるシンポジウム	7/29	河川部	10名	230名
計			28名	1159名

担当理事 高橋紀男、佐藤清美

### II. 各事務所の活動状況

#### (1) 歴史の路を辿る・・・石神井川コース

最近、時が経つのが妙に早く感じる。昨年、このコースを歩いたのはついこの間のこの様に思っていたが、今年の開催日が早くもやって来た。

この行事は、四建・六建の合同開催で行われ、一年交替の幹事役が今年には六建で、7月5日(土)に開催された。当日は、生憎の雨にも拘らず、都民参加者は51名と盛況で、主催者側からは六建の渡辺所長、斎藤副所長、四建の渡辺工事二課長を始めとする23名と河川部3名の陣容。そこに我々ボランティア協会からの六建班2名(阿久津、増澤)と四建班1名(小柴)を加えた総勢80名が3班に分かれてコースを歩く。



地名の板橋の由来はこの橋「板橋」から

コースは、板橋区役所から王子駅前までの石神井川沿いの約4kmであるが、両岸の管理用通路は、散策路として整備され、夏の晴れた日でも高木の緑に包まれて涼しく、王子駅までの緩やかに下る道程を心地よく導いてくれる。

板橋区役所前を出発すると直ぐに旧中山道の最初の宿場・板橋宿を今に残す商店街を通り、地名の由来となった石神井川に架かる「板橋」に着く。ここから川沿いに明治の旧陸軍の兵舎や火薬

庫跡、加賀藩下屋敷跡の加賀公園、弘法大師で知られる金剛寺という様に数々の史跡が続く。

更には、三日月形の旧河道を整備した園地が点在し、昔の川の蛇行状況を今に伝え、当時の護岸や 12 万年前の地層の露頭、川底に残る河川工事の締切跡と貴重な川の歴史も辿ることができ、毎年多くの一般参加者を集める魅力となっている。

現役時代を含め、何度となく歩いたこのコースだが、毎回説明者が変わり、自分の時も含め説明者毎に趣向を凝らすため、口調や内容が変わり、懐かしい先輩方の語り口を思い出しながらその違いを聞くのが楽しみの一つになってきた。



終点の音無し親水公園・王子駅前

東京の街歩きの会を主宰するというご婦人は、今度は会で歩きたいとのこと。川歩きを趣味とするご夫婦は石神井川のファンになったとのこと。

そんな参加者の言葉に励まされつつ今まで歩いて来たこの川辺の路だが、自分にとっても色々な歴史を持つ路だと改めて思う半日となった。

四建班 小柴 茂

## (2)川を歩こう～多摩川コース～

西多摩建設事務所主催の「川を歩こう～多摩川コース～」は、7月24日(木)、協会から清水・谷村の2名の会員が参加して実施されました。

コースは、奥多摩町の鳩ノ巣駅をスタートし、多摩川に架かる吊橋「雲仙橋」から鳩ノ巣溪谷を眺め、溪谷に降りて多摩川の支流西川から流れ落ちる双竜の滝、玉川水神社を見学。そして、鳩ノ巣小橋を渡り鳩ノ巣溪谷の遊歩道を散策し、白丸

ダム魚道を見学する約2時間のコースです。当日は、梅雨明け直後の猛暑となるなかでの開催となりました。

青梅線鳩ノ巣駅前の広場で9時30分から受付が開始されました。都内各地より35名の参加申し込みがありましたが、当日のキャンセルや電車に乗り遅れた連絡が入るなど、事務局も出発前から対応に大わらわでした。夏休みに入り、親子連れの参加者も多くみられました。

宮田補佐の説明、小川課長の挨拶のあと準備体操をしていよいよ出発です。3班に分かれた参加者は奥多摩観光協会「名人達人ガイドの会」の説明を受けながら、溪谷の探索を楽しみました。

鳩ノ巣溪谷の石畳遊歩道の脇には、玉アジサイやホタルブクロが可憐な花を咲かせるなど、溪流の響きとともに暑さを一瞬忘れさせてくれます。溪谷を辿り高低差約20mの石階段を上がると休憩場所に着きます。そこでは西建職員から氷った「東京水」のペットボトルが配られ、のどの渇きと暑さを癒してくれました。



白丸ダムのアイスハーバー型魚道の見学

休憩の後、交通局が発電用に建設した白丸ダムを渡ります。白丸ダム魚道管理棟の前では、原田河川維持担当係長より魚道の目的や魚道の種類についての説明がありました。らせん状の管理棟の階段を降りると、魚の休憩プールがあり、そこにはヤマメ・ニジマスなど数匹の魚が泳いでいる姿が確認できました。地下魚道のあるトンネル内部は年間を通じて温度が一定でひんやりとしてい

て、外の暑さを忘れるくらいでした。トンネルを出た先の多摩川に注ぐ明かり部水路では、アイスハーバー型魚道などを参加者の皆さんが興味深く見学していました。

管理棟の前に戻りアンケートに記入し、公園協会からのプレゼントを受け取り散会となりました。中には、更に奥多摩駅まで散策を続けられる参加者もおられました。暑い中、早朝より準備された西建及び河川部の職員の皆様ご苦労様でした。

西建班 谷村 秀樹

### (3)野川のちびっ子先生集まれ「野川の通信簿」

天気にも恵まれた平成 26 年 6 月 30 日(月)、小金井市立南小学校 6 年生が参加し、川とのふれあいを体験し、河川に対する関心や愛護意識を高めてもらうための行事が、同校の北側にある小金井新橋の上下流において、野川流域連絡会(流連)の主催によって開催されました。今回で 12 回目を数えます。

行事の内容は、流連のインストラクターが指導して「水質」、「鳥・昆虫」、「水生生物」、「植物」のテーマごとに分かれた小学生に実地体験してもらい、それを子供たちが通信簿に記録しながら、体験していく半日の課外学習です。

協会員(小島、池田、舛原、新川)は、流連の「鳥や植物など」のプロが小学生たちに教えるときの補助や誘導などを、北多摩南部建設事務所工事第二課の職員とともに、安全に安心して体験学習できるようにサポートしました。



小島さん、舛原さん、池田さん

今回は、開催 12 回目にして始めて、J:COM の

有線放送の取材班が入って、子供たちの活動を取材していました。さらには、大学の卒業論文で「野川」をテーマとした学生さんが、「水質」の実験などに興味があるため、「子供たちの水質実験」をビデオ撮りするなどの取材もあって、いつもと違った体験のある「野川の通信簿」となりました。



### 流連インストラクターと南小の子供たち

日頃は、川に入るなどない最近の子供たちが、水のなかに入って、水生生物の捕獲など、私たちが当たり前体験していたことを体験できることは、貴重な経験になったものと思います。毎年の南小 6 年生が体験していることは、これからも、長く引き継がれていってほしいと思っています。

行事の最後に、校長先生が野川の延長約 18 キロのなかで唯一つ、この小学校の生徒たちが 12 年間も長きに渡って、体験学習ができることは、流連の皆様や北多摩南部建設事務所の方々の努力によるものであるので、感謝しましょうと挨拶されていました。

子供たちの笑顔は、何にも代えがたい清涼剤として多くの関係者に心地良いものとなっていました。未来をつくる子供たちがこうした体験を得ることにより、自然や河川、地域を愛する心を育ていくことは嬉しいもので、そのお手伝いをしていることは楽しいものです。

協会員として、これら行事に協力していくことの喜びと、これから北多摩南部建設事務所の職員が後片付けをして通常業務に戻るのであろうと思いつつ、現場を後にしました。

北南建班 新川 彰

(4)その他事務所の活動写真

①川を歩こう隅田川(一建、五建、江東治水)



公園協会の水辺ライン船内及びガイドの説明



田沢さん、佐野さん、坂本さん、林(幹)

②環七地下の巨大トンネルを体験(三建)



佐藤さん、加藤さん、瀧澤さん  
井出さん、小川さん、中田さん

③川を歩こう南浅川(南西建)



高橋さん、中込さん

④第21回わくわく川清掃&川遊び(北北建)



後列 藤井さん、飯塚さん、野村(隆)さん  
前列 林(銑)さん、吉原さん、藤江さん、岩田さん

※ 協会からのお知らせ ※

1. 今号からニュースの担当者が変わりました。載せたい記事等ありましたら、ぜひ下記編集担当理事まで連絡願います。また直接編集長の林([mikio.hayashi@okumuragumi.jp](mailto:mikio.hayashi@okumuragumi.jp))まで原稿を送付していただいても結構です。

2. 当協会のホームページアドレスは <http://tokyo-adv.info/> です。バックナンバーもあります。ぜひご覧ください。

発行人 杉浦 浩  
発行 東京都建設防災ボランティア協会  
新宿区西新宿 2-7-1  
小田急第一生命ビル 20F  
公益財団法人  
東京都道路整備保全公社内  
編集 高橋 紀男、林 幹生  
堀内 康彦、丸岡 敏夫

